

## 【資料 1】

# 2025 年度（令和 7 年度） 施策マネジメントシート (第 2 回審議会用)

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月23日

施策番号	施策名	安心して生み育てることができる子育て支援
3-2-1	政策名	安心して子育てできるまちづくり
	課長名	佐々木 雅之
	対象	内 線 168

### 1. 施策の方針と成果指標

成果指標	説明	単位	策定期(基準期)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標	結果
① 育児が楽しいと感じる親の割合	乳幼児健診アンケート	%	90.0 (R3)	88.0	93.8	/	90%以上
② 安心して子育てができる環境であるところの市民の割合	住民意識調査	%	88.6 (R3)	86.4	88.3	/	90.0
③ 育児・家事に協力してくれる方がいる割合	乳幼児健診アンケート	%	93.5 (R3)	93.9	95.4	/	90%以上
④							

①は、乳幼児健診の際に実施する保護者アンケートの結果を成果指標として設定。  
 ②は、市民を対象とした住民意識調査の結果を成果指標として設定。  
 ③は、乳幼児健診の際に実施する保護者アンケートの結果を成果指標として設定。

#### 成果指標 設定の考え方

(1) 施策の達成度とその考察			
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	3指標いずれも前年比増。 支援センターにおける受託者・親の増加、子育て支援センターにおける玩具貸出事業の開始や好調な実績、ひとり親家庭等日常生活支援事業における時間要件の拡大など、制度の強化や実態に合わせた柔軟な運用を進めたことにより、安心感が高まった。	想定される理由 （理由）
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	・成果目標からには、既に目標値に到達しているものもあり、ひとり一人に寄り添う支援により、引き続き高いレベルでの満足度を目指していくたい。 ・成果目標(②)については、年度によるばらつきはあるものの、目標達成が見通せない。現在育児中の回答者のみではないため、「地域全体として、子ども・子育てに対応する地域社会の理解を深め、安心して生み育てることができるまちづくり」をさらに必要であり、広報誌掲載などにより実施中。	根拠 （理由）
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事業総括			
①施策の成果向度が高かつた事務事業	児童手当支給事業	②施策の成果向度が低かつた事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	子ども医療費給付事業		
(3) 「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)			
担当課 評価	計画期間初年度の子ども医療費の強制支給対象年齢による支給額が変更となり、改正情報の啓発と手続きを丁寧に実施。 ・妊婦等相談・支援事業「子育て支援センター運営事業」「乳幼児健診・相談事業」、「育児支援事業」など一妊婦期から子育て期に渡るまでの様々な悩みを相談でき、助産師による直営の産後ケアやヘルパーによる支援が実現。 ・「発達支援センター運営事業」「児童発達支援給付事業」など→早期発見・早期療育、一貫性と継続性ある個別サポートの保障システムが定着	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなった D: (後期実施計画策定期と比較して)後退した E: (後期実施計画策定期と比較して)前進した	進捗結果 （進捗結果）
施策事業費 (千円)	策定期決算 437,056	2023年度決算 487,141	2024年度決算 570,030
			2025年度決算 2026年度決算

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・生民意見等

令和6年度に、本町の子ども・子育て政策を総合的に推進する「子ども・子育て支援事業計画」の次期計画（7年度～11年度）を策定。 本計画には、国の「こども大綱」や「都道府県こども計画」を勘案した「市町村こども計画」として一体的に策定するとともに、「母子保健を含む成育医療等に関する市町村計画」としても位置付けられるもの。 少子化の進行や晚婚化・晚産化傾向が続く中で、安心してこどもをうみ育てことができ、未 来を担うこどもが健やかに育つ環境づくりや、子育て支援体制の整備に取り組むとともに、さまざまな事情や背景の家庭に対応した相談・援助体制の充実と、妊娠から出産・子育て期に至るまでの切れ目のない支援を実践する旨を規定。 施策を取り巻く状況と今後の予測	・「子どもにやさしいまちづくりについて」として、令和6年6月定期会議において一般質問を受けている 二の施策に対する意見 ・「子どもの権利が尊重されるまちづくりについて」として、令和7年3月定期会議において一般質問を受けている 住民・審議会・議会 ・「第3期芽室町子ども・子育て支援事業計画（芽室町こども計画）案」に対する芽室町総合保健医療福 見や要望が寄せられ、どのように改善されるか。 ・どのような権利を保障し、まちづくりへの参画、意見反映に努められたいとする意見が付されている したか。
<b>5. 施策の課題認識（現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題）</b>	

#### 6. 経営戦略会議（市内評価）

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E	
評価	5)に記載の取り組みを進めてください。 今後の取組に対する意見	A、実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）前進した D:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定期と比較して）後退した	A	B	C	D	E
評価	・経済面について、整備を整えていることから。 ・成果指標をおおね達成している。 ・切れ目なく支援をしていることで、評価。	A、実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）前進した D:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定期と比較して）後退した	A	B	C	D	E
評価	・芽室町で子育てすることのメリットが大きくあれば、子育て世帯にとつて、もつとい環境になるのではないか。 ・子育てにに対して大変なイメージがあると思うが、芽室町で子育てるることに希望を持つように、地域交流の促進等に力を入れる。	A、実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）前進した D:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定期と比較して）後退した	A	B	C	D	E

#### 7. 総合計画審議会（外部評価）

評価	・経済面について、整備を整えていることから。 ・成果指標をおおね達成している。 ・切れ目なく支援をしていることで、評価。	A	B	C	D	E	
評価	・芽室町で子育てすることのメリットが大きくあれば、子育て世帯にとつて、もつとい環境になるのではないか。 ・子育てにに対して大変なイメージがあると思うが、芽室町で子育てるることに希望を持つように、地域交流の促進等に力を入れる。	A、実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）前進した D:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定期と比較して）後退した	A	B	C	D	E

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月23日

施策番号		施策名	子育て環境の充実	基本目標		誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		(1)施策の達成度とその考察	
3-2-2		政策名	安心して子育てできるまちづくり	①2024年度 (成績評価 (前年との比較)	○ 成果は向上した	○ 成果指標①は増、成果指標②は0を継続、成果指標③は微増。	○ 成果指標②は0を継続したが、原因となり、一定の結果であり、一定の信憑性がある。	○ 成果指標①は、ここ3年間下がり続けたが、原因となり、特定施設の満足度が大きく改善したことにより、指標全体も上昇した。アンケート回答率も大きく上昇し	○ 成果指標①は、ここ3年間下がり続けたが、原因となり、一定の結果であり、一定の信憑性がある。
		課長名	佐々木 雅之	内 線	168	□ 成果は変わなかった	□ 成果は低下了した		
<b>1. 施策の方針と成果指標</b>									
成果指標		施策の方針	対象	意図		結果		(2)施策の実績評価	
①保育所の保育サービスに満足している保護者の割合		保護者アンケート	保護者アンケート	対象	対象	実績	実績	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況
②保育所待機児童数		実績数	人／年	実績数	実績数	2023年度実績	2024年度実績	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況
③安心して子育てができる環境であると思う町民の割合		住民意識調査	%	住民意識調査	住民意識調査	2023年度実績	2024年度実績	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況
④								○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	○ 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況
①は、町内保育施設を利用する保護者アンケートの結果を成績指標として設定。 ②は、保育所待機児童数を継続するため、成績指標に設定。 ③は、町民を対象とした住民意識調査の結果を成績指標として設定。									
成果指標		設定の考え方	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)						
2. 施策の事業費									
施策事業費(千円)	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算				
748,099	811,855	869,596							

A: 実現した  
B: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した  
C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなった  
D: (後期実施計画策定期と比較して)小さくなった  
E: (後期実施計画策定期と比較して)後退した

・成績指標②に於いては、保育人財の確保状況が直結する目標であるため、多様な支援策を講じる中で、効果測定しながら進めていく必要がある。

・成績指標③については、年度によるばらつきはあるものの、目標達成度が見通せない。現在育児中の回答者のみでないため、「地域・全体会として、子ども・子育てに対応する柔軟な雰囲気を高めしていく啓発がさらに必要であり、広報誌掲載などにより実施中。

根拠(理由)

3

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・生民意見等

<p>令和6年度に、本町の子ども・子育て政策を総合的に推進する計画である「子ども・子育て支援事業計画」の次期計画(7年度～11年度)を策定。</p> <p>本計画は、国の「こども大綱」や「都道府県こども計画」を勘案した「市町村こども計画」として一括して策定するとともに、「母子保健を含む成育医療等に関する市町村計画」としても位置づけられるもの。</p> <p>少子化の進行や晚婚化・晚産化傾向が続く中で、安心してこどもをうみ育てることができ、未 来を担うこどもが健やかに育つ環境づくりや、子育て支援体制の整備に取り組むとともに、さまざまな事情や背景の家庭に対応した相談・援助体制の充実と、妊娠から出産、子育て期に至るまでの切れ目のない支援を実践する旨を規定する。</p> <p>施策を取り巻く状況と今後の予測</p>	<p>・令和5年4月より、入所児童不在により、上美生保育所が休所となっている。</p> <p>・令和5年度末をもって小規模保育事業所(1事業者)が撤退し、社会資源が減少したが、他事業所の定員増により受け入れ枠は確保している。</p> <p>・一方、出生数は減少傾向ながら、特に0歳児の入所需要が増しており、待機児童ゼロ継続のためには、保育人財の確保を含めた対策強化が求められる。</p> <p>・昨年度、総合計画審議会より今後の取組に対する意見として、「放課後児童クラブ等でのおやつの提供を再開してほしい。」旨が付されており、希望者がやつ持ち込み(預かり)について試験実施を予定</p> <p>・昨年度、総合計画審議会より今後の取組に対する意見として、「保育士が安心して働く労働環境を整えてほしい。」旨が付されており、2か月毎に開催する保育施設連携会議において議論を進めるとともに、7年度の新規事業へとつなげている。</p> <p>この施策に対して、住民・審議会・議会などどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善されたか。</p>
--	--

#### 5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>後期実施計画における施策の方針を「子どもの健やかな成長を促すとともに、教育・保育人財確保による保育基盤の確保を前提に、「第3期芽室町子ども・子育て支援事業計画(芽室町こども計画)」に沿った取組を進めていく。</p>	<p>なお、第3期計画における策定のポイントは次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども大綱」「都道府県こども計画」と勘案した市町村こども計画として策定</li> <li>・保育を必要とするすべてのこどもが、質の高い児童教育・保育を受けることができるること</li> <li>・妊娠から出産・子育て期に至るまでの切れ目のない支援を実践し、すべての子育て家庭がそれぞれのニーズや状況にあつた子ども・子育て期に利用することができる</li> <li>・妊娠・出産・子育て期における支援とライフステージに応じたこどもの育ちを支える切れ目のない支援体制を構築することで、親子の生涯に渡るワエルビーリングの基盤を築くことができる</li> </ul>
--	---

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

<p>評価</p> <p>成果指標の達成状況、達成していないが高いページ数であることを踏まえ、前進したと評価する。</p>	<p>A B C D E</p> <p>進捗結果 ○</p>	<p>A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した</p>
<p>評価</p> <p>今後の取組に対する意見 5に記載の取り組みを進めてください。</p>	<p>A B C D E</p> <p>進捗結果 4</p>	<p>A:実現した B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した</p>
<p>7. 総合計画審議会(外部評価)</p>	<p>評価</p> <p>・成果指標の達成状況から前進している。 ・待機児童が0ということが長く続いている。 ・保護者のニーズに応え負担を減らしていることや保育人材の確保。 ・本当ににが大事なのかという考え方が形になっている。</p>	<p>A B C D E</p>

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月18日

施策番号	施 策 名	生 活 を 通 じ た 健 康 づ く り	基 本 目 標
3-1-1		誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり	いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり
	主 管 課 健康福祉課	課長名 森 真由美	内 線 145
	施策関係課 子育て支援課		

### 1. 施策の方針と成果指標

成 果 指 標	施 策 の 方 針	対 象	意 図	結果
① 日頃から健康的な生活習慣を身にしている方たど思つ町民の割合	運動や食生活の改善などへの推進により、健康的な生活習慣や食習慣を促すとともに、保健指導などにより、自らが行動し生活習慣病を予防する健康づくりをすすめます。	町民	・健康的な生活習慣及び食習慣を身につけてもらう ・生活習慣病の有病者・予備軍を減少させます。	心身ともに健康で生き生きと健やかに暮らせる

成 果 指 標	説 明	単 位	策定時目標(率)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標	結果
① 日頃から健康的な生活習慣を身にしている方たど思つ町民の割合	住民意識調査	%	65.2 (R3)	63.5	63.5	70.0	
② 特定健診受診率	健診等成果	%	34.0 (R2)	36.9	10月判明	60.0	
③							
④							

① 健康づくりのためには日頃から健康的な生活習慣を身につけることが必要であることから成果指標に設定。  
② 特定健診受診率の増加により健康状態が不明な方を減らし、生活習慣病の予防や重症化予防を目指すため、「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、国の目標値に合わせて設定。

施策事業費	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費 (千円)	2,960,327	2,944,889	2,937,609		

### 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2024年度の成果評価 (前年との比較)	□ 成果は向上した □ 成果は変わらなかった □ 成果は低下した	特定健診をはじめ各種健(検)診では受診率はわずかばかり増加にとどまっているが、ワーキングモニター事業では30代からの若年層を含め、健康づくりの取り組みへのきっかけや継続への後押しなどつながった。新型コロナワクチン接種等によって疾病の予防や重症化予防により健康増進に繋がった。	想定される理由
② 第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	□ 現状の取組の延長で目標は達成できる □ 現状の取組の延長で目標達成は難しい	住民意識調査では70代以上の男女ともに「健康的な生活習慣を身につけている」と思う割合が他の年代に比べて高く、次いで10代・20代が高い結果となつている。 生活習慣病予防は若い頃からの生活習慣が重要な要因である。子どもの頃から望ましい食事や運動習慣を身につけれる機会の継続と、健康新規事業等を学び身に取り組み等により目標に近づくことができるところである。	根拠 (理由)
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事業総括			
① 施策の成果向上に貢献した事業	各種がん検診事業 健康ポイント制度運営事業 児童・生徒健康教育事業	特定健診事業・特定保健指導事業	② 施策の成果向上が低かった事業
③ 事業の目標達成は難しい			
(3) 「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)			
担当課評価	特定健診の新規及び継続受診の勧奨方法及び、申込込み方法の工夫・簡略化等により健診機会の確保に取り組んだ。また、児童生徒及び若年層からの健康相談や健康教育、ワーキングモニター事業での健康づくりのきっかけや取り組みの後押しなど、取り組みは進めているが、成果指標の数値への反映はわずかであるため維持とする。	A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった D: (後期実施計画策定期と比較して)維持した E: (後期実施計画策定期と比較して)後退した	A B C D E

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、維持したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
評価	今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した E:後期実施計画策定期と比較して前進した				○
評価	今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した E:後期実施計画策定期と比較して前進した				○
評価	今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した E:後期実施計画策定期と比較して前進した				○

評価	今後の予測	施策を取り巻く状況と今後の予測	5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)
評価	・ウォーキングモニターの取組みは、町民が楽しんで参加している印象。楽しいイメージで健診などについてもアプローチしてほしい。→ 多課の若手職員チームを組み、キャラクター作成や周知方法の工夫を取り組んでいく。 ・町民が健常的な生活習慣を身につけられるよう、ハード面は、環境が整つてきているため、ソフト面で環境を整えてほしい。 → ウォーキングを町民全體に普及するためにアプリ導入を検討している。	施策を取り巻く状況と今後の予測 ・生活習慣病予防に着目し平成20年度から制度化された特定健診を始め、がんの予防や早期発見早期治療、感染症の予防や重症化予防、心の健康や自殺予防など、国民の健康増進、健常寿命の延伸を目指すための保健事業を実施。特定健診(令和6年度～令和11年度)に基づき実施している。	・受診率が低いことで生活習慣病予防事業の発展が遅れる可能性があり、未受診者を減少させることが重要である。節目年齢無料对象者や、通院・治療中で健診未受診者に、特に受診勧奨を強化する。 ・健診を数年に一度でよいと考えるままに受診を減らすため、継続受診の重要性を訴える。 ・子どもの頃からの望ましい食事や運動習慣等を学び身につける機会を確保することで、健常な心身を育て、さらに家庭全體への波及効果につながることから、関係課の連携により今後も継続して取り組む。

評価	今後の取組に対する意見	5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)	7. 総合計画審議会(外部評価)
評価	今後の取組に対する意見	・健診の受診率は文字が多い気がする。どれも大事なものではないか。 ・ウォーキング促進のアプリの導入検討について、楽しみながら運動できるのが理想なため、未受診者にアプローチできると嬉しい。 ・健診の受診率をあげるために、未受診者に受け入れる人が増えれると早期の発見につながると言われる。そういうアプリはどうか。 ・市には、SPOBY(スポット)というアプリがあり、目標値を達成すると特典が貰えるものである。メリットがあるとアブリを入れる人も多い。	評価

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月19日

施策番号	施策名	障がい者の自立支援と社会参加の促進	基本目標	
			政策名	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり
3-3-3	主 管 課 健康福祉課	・社会復帰及び社会参加を促す	政策名	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり
	施策関係課	・社会復帰及び社会参加を促す	政策名	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり

### 1. 施策の方針と成果指標

成果指標	説明	単位	策定時基準(年)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標	結果
① 障がい者にどうつて暮らす市民の割合	住民意識調査	%	70.9 (R3)	61.7	69.4	88.0	
② 就労支援事業所から一般就労している方の人数 (R5～R8累計)	健康福祉課調べ	人	7 (R3)	3 (3)	7 (4)	12	※(1)内は単年実績
③							
④							

①地域住民の障がい福祉に関する意識を客観的に表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。

前期計画策定期時の数値を上回ることを目指した目標値を継続。

②就労支援の取り組みにより、障がい者の一般就労移行を目指し成果指標として設定。

\*第4期総合計画においては障がい者施設への入所・退所者数を成果指標としていたが、第5期総合計画から変更。

成果指標	設定の考え方	「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)		
		A: 実現した	B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている	C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている
施策事業費 (千円)	策定期決算	2023年度決算 682,991	2024年度決算 731,442	2025年度決算 779,037

### 2. 施策の事業費

担当課 評価	「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)			
	A: 実現した	B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている	C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている	D: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている
			○	

A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている

C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている

D: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなっている

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。  今後の取組に対する意見	進捗結果	A	B	C	D	E
		A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した C:後期実施計画策定期と比較して前進した D:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した E:後期実施計画策定期と比較して後退した					
評価	C ・手帳の所有者にアンケートを実施してニーズを確認してはどうか。 ・就労後の調査も必要ではないか。 ・ヘルパーが支障しやすい環境を検討してほしい。 ・防災の関係。障がいで言葉がしゃべれない人いる。 今後の取組に対する意見	進捗結果	A	B	C	D	E
		A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した C:後期実施計画策定期と比較して前進した D:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した E:後期実施計画策定期と比較して後退した					
評価	C ・手帳の所有者にアンケートを実施してニーズを確認してはどうか。 ・就労後の調査も必要ではないか。 ・ヘルパーが支障しやすい環境を検討してほしい。 ・防災の関係。障がいで言葉がしゃべれない人いる。 今後の取組に対する意見	進捗結果	A	B	C	D	E
		A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した C:後期実施計画策定期と比較して前進した D:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した E:後期実施計画策定期と比較して後退した					

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月19日

施策番号	施策名	互いに認め合う地域社会の形成	基本目標	
			政策名	誰もが個性と能力を発揮できる地域社会の実現
3-4-1	主 管 課 健康福祉課	課長名 森 真由美 内 線 145		
	施策関係課 高齢者支援課、政策推進課			

### 1. 施策の方針と成果指標

成果指標	説明	対象	意図		結果
			策定時基準値	2023年度実績	
① 性別、年齢、障がいの有無などに問わずに、誰もが個性と能力を十分に発揮できるようにする。・人権を守り、権利侵害（擁護）への意識を高める。	・誰もがその個性と能力を十分に発揮できるようにする。・人権を尊重し、差別や権利侵害のない地域づくりをすすめます。	市民	誰もが個性を認め、互いに尊重し合う社会を築くことができる。		
② 人権が尊重され、差別や人権侵害がない町だとと思う	・性別に左右されない社会進出（参加）できる町だと感じる	① (参加)の割合	58.0 (R3)	60.3	64.5

成果指標	説明	対象	意図		結果
			策定時基準値	2023年度実績	
① 人権が尊重され、差別や人権侵害がない町だとと思う	・性別に左右されない社会進出（参加）に関する住民の意識及び、人権尊重に関する住民の意識を表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。いずれも前期計画策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定。	市民	70.0 (R3)	69.6	72.6
② 人権が尊重され、差別や人権侵害がない町だとと思う	・性別に左右されない社会進出（参加）に関する住民の意識及び、人権尊重に関する住民の意識を表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。いずれも前期計画策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定。	② (参加)の割合	70.0 (R3)	69.6	72.6

成果指標	説明	対象	意図		結果
			策定時基準値	2023年度実績	
③	・性別に左右されない社会進出（参加）に関する住民の意識及び、人権尊重に関する住民の意識を表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。いずれも前期計画策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定。	市民	70.0 (R3)	69.6	72.6
④	・性別に左右されない社会進出（参加）に関する住民の意識及び、人権尊重に関する住民の意識を表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。いずれも前期計画策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定。	④ (参加)の割合	70.0 (R3)	69.6	72.6

成果指標	説明	対象	意図		結果
			策定時基準値	2023年度実績	
⑤ 登用率	・性別に左右されない社会進出（参加）に関する住民の意識及び、人権尊重に関する住民の意識を表す指標として住民意識調査を成果指標に設定。いずれも前期計画策定時の数値を上回ることを目指し、目標値を設定。	⑤ (登用)の割合	70.0 (R3)	69.6	72.6

### 2. 施策の事業費

施策事業費 (千円)	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
6,565	6,735	7,120			

### 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察				
① 2024年度の成績評価 (前年との比較)	□ 成果は向上した □ 成果は変わなかった □ 成果は低下した	□ 成果は向上した □ 成果は変わなかった □ 成果は低下した	想定される理由	成績指標①②はともに目標には大きく届かない状況ではあるが、昨年度と比較して増加。各項目に係る総合的な結果により、成果は一定程度を維持したものと考える。
② 第5期総合計画後期実施計画 (2026年度)の最終的な目標達成状況	□ 現状の取組の延長で目標は達成できる □ 現状の取組の延長で目標達成は難しい □ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	□ 現状の取組の延長で目標達成は難しい □ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	男女共同参画社会実現のための普及啓発の取り組み及び、高齢者への支援と、人権教室による子どもや障がい者、高齢者等すべての人が個人として尊重される社会の実現を目標に取り組み等、多方面からの取り組みの意識と実績により認められ、認知症意識の向上を目標に取り組むことができる。
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括				
① 施策の成果 (実績) 向上に對して貢献度が高かつた事務事業	男女共同参画推進事業 帯広人権擁護委員協議会参画事業 権利擁護事業	② 施策の成果 (実績) 向上に對して貢献度が低かつた事務事業		
③ 事業全体会員の振り返り (総括)	・男性向けの家事講座、町ホームページへの掲載などにより普及啓発を行った。 ・人権委員による人権相談や啓発普及活動のほか、児童・生徒等を対象に人権教室を実施した。 ・子どもたちの頃から高齢者の意識の醸成を図った。 ・高齢者の権利擁護支援本制の充実のため、委託業務の利用支援や市民後見人制度の利用促進や制度のネットワークにより消費者被害等の未然防止に取り組んだ。	③ 事業全体会員の振り返り (総括)		
(3) 「施策の方針」実現に対する進捗結果 (計画策定期との比較)				
担当課評価	男女共同参画社会実現のため、施策の実施状況の年次報告書作成と公表を実施。また、ハネル展や	進捗結果	A B C D E	C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した D:（後期実施計画策定期と比較して）後退した E:（後期実施計画策定期と比較して）前進した	A	B	C	D	E
評価	C ・成果指標の前進。 D ・成年後見人制度の連携を評価 ・地区の集まりでの実体験で、男女共同参画とは感じない。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・高齢化に伴い依頼者の増加も見込まれることから、市民後見人の確保をお願いしたい。 ・子育て中の女性、時間が取れないため、家政婦やロボット掃除機などの助成で女性の時間を作れないか。 ・ハラスメントについてでは、言い出せない女性、当事者は多いのでと思うので、役場で、相談窓口を作つては。 ・ハラスメントや男女共同参画について、役場が研修会など率先してやつていくことが重要だと感じる。 ・これから増加してくる外国人についても対応が必要。	A:実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した D:（後期実施計画策定期と比較して）後退した E:（後期実施計画策定期と比較して）前進した	A	B	C	D	E

#### 5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

評価	C ・女性の活躍推進など国の方針等を注視しながら男女共同参画を進める。 ・人権意識の普及啓発には幼少期からの意識の醸成が重要であり、継続して教育機関との連携による意識啓発活動を行う。また、法務局等関係機関と連携した取り組みを進める。 ・認知症や支援者の不在など権利擁護の支援を必要とする高齢者等のますますの増加が見込まれる。関係機関と連携し、継続して取り組みを進める。	進捗結果	A	B	C	D	E

#### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	C ・成年後見人制度の連携を評価 D ・地区の集まりでの実体験で、男女共同参画とは感じない。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・高齢化に伴い依頼者の増加も見込まれることから、市民後見人の確保をお願いしたい。 ・子育て中の女性、時間が取れないため、家政婦やロボット掃除機などの助成で女性の時間を作れないか。 ・ハラスメントについてでは、言い出せない女性、当事者は多いのでと思うので、役場で、相談窓口を作つては。 ・ハラスメントや男女共同参画について、役場が研修会など率先してやつていくことが重要だと感じる。 ・これから増加してくる外国人についても対応が必要。	A:実現した B:（後期実施計画策定期と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定期と比較して）変わらない又は維持した D:（後期実施計画策定期と比較して）後退した E:（後期実施計画策定期と比較して）前進した	A	B	C	D	E

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成: 2025年 6月 16日

### 3. 施策の達成状況

施策番号				施 策 名		高齢者福祉の充実		基本目標		誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		(1) 施策の達成度とその考察									
3-3-2				政策名				住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実				① 2024年度 の成果評価 (前年との比較)									
- 主 管 課				課長名		久保慎巳		内 線		154		□ 成果は向上した									
- 施策関係課				健康福祉課				□ 成果は変わらなかった				② は前年より微減している一方、①③ともに大きくなり伸びており、介護・医療施設によるサービス提供のほうで、介護予防事業や高齢者福祉センターの充実について、広く認識されたことで向上したと捉えている。									
1. 施策の方針と成果指標				施策の方針				対象		意図		想定される理由									
2. 施策の事業費				事業費 (千円)				策定期決算		2023年度決算		2024年度決算		2025年度決算							
3. 施策の達成度とその考察				(1) 施策の達成度とその考察				(2) 施策の達成度とその考察				(3) 施策の達成度とその考察									
4. 施策の実現にに対する進捗結果 (計画策定期との比較)				担当課 評価				A: 実現した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した				C: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した									
5. 施策の実現にに対する進捗結果 (計画策定期との比較)				担当課 評価				A: 実現した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した				C: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した									

### 1. 施策の方針と成果指標

成果指標		説明		単位		策定期(基準値)		2023年度実績		2024年度実績		2025年度目標	
① 高齢者にとって暮らしやすいまちの高齢者の割合	合	住民意識調査	%	6.6	(R3)	65.9	75.0					72.0	
② やりがいのある趣味や運動、仕事に取り組んでいる高齢者の割合		住民意識調査	%	68.9	(R3)	70.6	68.7					75.0	
③ 莊原町の福祉サービスに満足している高齢者の割合	合	住民意識調査	%	71.4	(R3)	78.8	87.5					77.2	
④													

- ① 町民が感じている高齢者の暮らしやすさは、本施策の指標となることから設定。  
② 活動的な高齢者の割合が増えることに対する高齢者の満足度を捕捉する必要があり設定。  
③ 町内で提供される福祉サービスに対する高齢者の満足度を上回ることを目指し目標値を設定。

### 2. 施策の事業費

施策事業費 (千円)	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
1,609,515	1,701,095	1,745,647			

① 介護人材を確保する体制づくりが進み、相談体制の強化により高齢者の個別に応じた適切な介護サービス等の提供が図られた。また、介護予防事業の拡充や介護予防の重要性を啓蒙する活動を通じ、高齢者の健康づくりや社会参加が進んだことから送迎付きの介護予防教室を開催したところにより、住民主体の通いの場を整えた。
② 施策の実現にに対する進捗結果 (計画策定期との比較)
③ 「施策の方針」実現に対する進捗結果 (計画策定期との比較)

① 介護人材を確保する体制づくりが進み、相談体制の強化により高齢者の個別に応じた適切な介護サービス等の提供が図られた。また、介護予防事業の拡充や介護予防の重要性を啓蒙する活動を通じ、高齢者の健康づくりや社会参加が進んだことから送迎付きの介護予防教室を開催したところにより、住民主体の通いの場を整えた。
② 施策の実現にに対する進捗結果 (計画策定期との比較)
③ 「施策の方針」実現に対する進捗結果 (計画策定期との比較)
④ 介護人材を確保する体制づくりが進み、相談体制の強化により高齢者の個別に応じた適切な介護サービス等の提供が図られた。また、介護予防事業の拡充や介護予防の重要性を啓蒙する活動を通じ、高齢者の健康づくりや社会参加が進んだことから送迎付きの介護予防教室を開催したところにより、住民主体の通いの場を整えた。
⑤ 施策の実現にに対する進捗結果 (計画策定期との比較)

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進歩結果	A	B	C	D	E
				○			
評価	今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した	C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した	D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した	E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した
評価	今後の取組に対する意見	B: 成果指標の割合の高さを評価。 ③事務事業全体の振り返り(総括)が充実している。 C: マネジメントシートの内容があまり変わっていないが、成果指標の増加を参考評価。 ・成果指標②の減少を考慮。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した	C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した	D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した	E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した
5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)		<p>「できる限り住み慣れた地域で暮らしたい」とこれは多くの市民の共通の願いであることから、「介護予防と生活支援、介護・医療・住まい」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の推進を図るため、特に次の事業について取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な介護保険サービス提供に不可欠な介護人材を確保する取り組み</li> <li>・成年後見見守り支援事業の充実</li> <li>・認知症施策推進計画策定に向けた取り組み</li> <li>・「まる元」運動教室をはじめとした切れ目のない介護予防事業の実施と更なる展開</li> <li>・健康状態不明者等、潜在する支援が必要な方への訪問による、社会参加促進及び孤立化防止</li> <li>・社会的支援を要する制度の検討における困難ケース増加への対応</li> <li>・自治体DX推進構想に基づく、デジタル技術の活用</li> </ul>					

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成: 2025年 6月 23日

### 3. 施策の達成状況

施策番号				施 策 名		従来の実績とその考察	
5-1-1				多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり		基本目標 住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり	
政策名				①2024年度 の成果評価 (前年との比較)		想定され る理由 前年度と比較し、微増ではあるが、①、②ともに、指標は上昇しており、成果は向上したと判断する。	
政策推進課 課長名 有澤勝昭				②現状の取組の延長で目標は達成できる		②については、目標値85%以上に到達しており、①の目標達成現に向けても、ホームページのマイナーチェンジ、町の公式LINEのリニューアルなどの継続により目標到達は可能と判断する。	
施策関係課 総務課				②第5期総合計 画(2026年度の最 終的な目標達成 状況		②に於いては、目標達成現に向けても、ホームペー ジのマイナーチェンジ、町の公式LINEのリニューアルなどの継続 により目標到達は可能と判断する。	
1. 施策の方針と成果指標				2. 施策の事業費			
施策の方針		対象		意図		結果	
・町民と行政との情報共有を行い、まちづくりに自発的に参加してもらう への参加を促進します。		町民		・町民と行政との情報共有を行い、まちづくりへの参加意識を高め、町民が主役となるまちづくりを進めます。		①施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ②施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ③施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ④施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括	
成果指標		説明		単位		結果	
① 行政情報の公開や説明責任が果たされていると思う ② 行政からの情報発信方法が充実していると思う町民の割合		住民意識調査		% (基準値) 76.1 (R3)		76.1 86.5 (R3)	
③						85.0 85%以上	
④						85.0 85%以上	
① 前期計画よりも実績値が下がっております ② 全町民に様々な手法で情報を届ける観点から、85%以上を目標とするが妥当と考え、85%以上の維持を目指す。		①施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ②施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ③施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括 ④施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括		・広報事業 ⇒ 令和3年5月から開始したLINE公式アカウントは、登録者数が順調に増加しており、有効な情報発信手段であることから、効果的に活用していく。 ・広聴事業 ⇒ 団体別・テーマ別でのめぐら未米ミーティングの実施回数は例年並みであった。また、冬季巡回型ミーティングは参加人数が減少傾向にあり、実施時期や場所の検討が必要である。		(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)	
2. 施策の事業費				3. 施策の達成度			
成果指標		設定の考え方		担当課評価		町の行政情報の発信については、ライン・フェイスブックの浸透もあり、策定期より前進したと判断する。	
施策事業費 (千円)		策定期決算 21,065		2024年度決算 22,819		2025年度決算 22,039	
A: 実現した D: 後期実施計画策定期と比較して大きく前進した		B: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した		C: 後期実施計画策定期と比較して前進した E: (後期実施計画策定期と比較して)後退した		○	

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

##### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進歩結果	A	B	C	D	E
	<p>「施策を取り巻く状況」デジタル技術を活用した情報共有・市民参加が求められている一方で、対面型のニーズもあり、当面は、両手法を併用する必要がある。</p> <p>「今後の予測」自分的好きな時に、手軽な方法で情報を入手する手段を拡大していくことが成果の向上につながるものと考える。</p> <p>今後の取組に対する意見</p> <p>5に記載の取り組みを進めてください。</p>	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した D: (後期実施計画策定時と比較して)変化して前進した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した			○		

##### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	C ・情報発信自体はしっかりと実行しているし方法・内容も充実している。 D ・成果指標(2)は高いレベルが維持されている。 ・成果指標について、前進したとまでは言えない。 ・めむろ未来ミーティングの参加者の減少。	進歩結果	A	B	C	D	E
	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した D: (後期実施計画策定時と比較して)変化して前進した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				4	1	

##### 5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>この施策に対する住民・審議会・議会からのような意見や要望が寄せられた方へ、LINEを活用した情報発信については、評価を受けることが多いが、一方では、アナログ的な手法を残してほしいとの意見もある。</p> <p>今後の取組に対する意見</p> <p>この施策に対する住民・審議会・議会からのような意見や要望が寄せられた方へ、どのよう改善したか。</p>	<p>広報紙では、詳細かつタイムリーな情報を伝えきれないため、ホームページとの連動を進める。 ・SNSの積極的な活用とともに、アナログ的な手法も併用し、多くの市民に情報を届けられるように進めていく。 ・LINEについては、市民との情報共有に有効な手段であり、市民視点での全般的な活用を進めていく。 ・対面式のめむろ未来ミーティングについては、イベント時など、人が多く集まる場所で実施する方法も検討する。</p> <p>今後の取組に対する意見</p> <p>・地域担当職員というシステムがありながら、そこは機能していないのではないか。 ・「5.施策の認識の課題」については、具体的な時期を明記して進めていただきたい。 ・デジタル技術の活用が難しい高齢者が取り残されることがないよう、多様な情報の伝達手段、特にアナログ手段も活用しながら配慮した方がいいと思う。 ・成果指標の数字は高いが目標との乖離があることから、発信自体は充実しているが内容は課題があると思う。</p>
--	---

### 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月19日

施策番号		施策名	有効な土地利用の推進	基本目標 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり 政策名 快適な都市環境づくりの推進		自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり 政策名 快適な都市環境づくりの推進	
4-2-1		主 管 課	都市経営課	課長名 佐藤季之	内 線 418	課長名 佐藤季之	内 線 418
<b>1. 施策の方針と成果指標</b>							
<p><b>施策の方針</b></p> <p>市街地の空き地や未用地を減らし、有効な土地利用を進めます。</p> <p>町全域のうち、市街化区域内の空き地や未用地を減らし、人口動態に適切に対応した土地利用を図る。</p> <p>主に都市計画区域に都市計画</p> <p>計画的な土地利用による自然と調和した快適なまちづくりをめざします。</p>							
成果指標	説明	単位	策定時基準(年)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標	結果
①市街化区域内の住宅戸数	町税務課データより	戸	6,958 (R3)	7,017	7,024	7,140	
②「まち並みが整つていて機能的なまちと思う市民の割合	住民意識調査	%	62.1 (R3)	58.2	66.0	80.0	
③							
④							
<p>①既成市街地の再編状況を把握するため、住宅戸数を指標に設定し、年平均30戸の増加を見込み、目標値を目標とする。 ②まち並みや機能的なまちに対する市民の満足度を向上させるため、指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの。</p>							
<b>2. 施策の事業費</b>							
施策事業費 (千円)	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算	2026年度決算	
17,821	25,320	29,454					

C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった  
D: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない  
E: (後期実施計画策定期と比較して)小さくなった

A: 実現した  
B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった  
C: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった  
D: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない  
E: (後期実施計画策定期と比較して)小さくなかった

### 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察									
(①) 成果は向上した		(①) 成果は向上した		(①) 成果は向上した ②前年と比べて増加		想定され る理由 ①成果は向上⇒民間ベースで増加傾向 ②都市計画マスタープラン等を推進することで、目標達成			
(②) 成果は変わなかった		(②) 成果は変わなかった							
(③) 成果は低下した		(③) 成果は低下した							
<b>1. 施策の方針と成果指標</b>									
施策の方針		対象	意図	(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括					
市街地の空き地や未用地を減らし、有効な土地利用を進めます。		町全域のうち、市街化区域内の空き地や未用地を減らし、人口動態に適切に対応した土地利用を図る。	市街化区域の空き地や未用地にによる自然と調和した快適なまちづくりをめざします。	①施策の成果向上に効いて貢献度が高かつた事務事業 ②施策の成果向上に貢献度が低かつた事務事業 ③事務事業全体の振り返り(総括)					
町税務課データより		戸	6,958 (R3)	7,017	7,024	7,140	● 工業系土地利用の拡大 →新たな市街地形図について、農林業との調整を図りながら関係機関と協議を進めている。 ● 住宅系土地利用の維持 →民家の宅地分譲により、子育て世帯を中心には住宅着工数を維持している。また、公有地を売却し有効な土地利用につなげている。 ● 都市計画管理制度の適正な運用 →農村潜在型余暇活動機能整備計画(グリーンサーリーズム)を策定し、市街化調整区域での有効な土地利用を図っている。		
「まち並みが整つていて機能的なまちと思う市民の割合		%	62.1 (R3)	58.2	66.0	80.0			
(3) 「施策の方針に対する進捗結果(計画策定期との比較)									
担当課 評価		工業系土地利用の拡大は、協議が進んでいる。住宅系土地利用についても、民間ベースでの住宅新築や改築が進んでいく。		A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して)大きくなかった C: (後期実施計画策定期と比較して)小さくなかった D: (後期実施計画策定期と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定期と比較して)小さくなかった					

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

	評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		・施策を取り巻く状況 ・これまでのどのような人口増加を前提とした都市づくりを目指す状況ではなく、既成市街地の再構築などにより、都市構造の再編に取り組む必要がある。このため茅ヶ崎市立地適正化計画を策定し、市民の暮らしを支える公共施設などの適正配置や交通環境の整備を進める必要がある。 ・今後の予測 ・都市機能の集約化及び中心市街地の空洞化防止策を推進し、高齢者や子育て世代が安心して生活できる利便性が高い機能的な住まいの整備、公共施設等の効果的な施設配置、町有未利用地の活用方針により、有効な土地利用を引き続き進めます。	進捗結果	O				
		今後の取組に対する意見 5)に記載の取り組みを進めてください。		A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した E:後期実施計画策定期と比較して後退した				
	評価	・都市計画市街化調整区域での土地利用に関する相談がある。 ・公共用地(普通財産)の利活用や購入希望がある。	進捗結果	A	B	C	D	E
		この施策に対する意見や要望が寄せられ、どのように改善されたか。		A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して前進した E:後期実施計画策定期と比較して後退した				
	評価	・成果指標が進捗しているため。 ・達成状況や課題認識を勘案して妥当。	進捗結果	A	B	C	D	E
		この施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題) ・適正かつ効果的な公共施設などの配置 ・利用者の利便性、地域間のバランス、町全体のジーニング、まちなか再生の取り組み、既存施設の改修及び更新などを勘案し公共施設配置の拡大 ・工業系土地利用の拡大 ・新たな市街地として農林業との調整を図りながら、拡大に向けて関係機関と協議を進める。 ・住宅系土地利用の維持 ・現在の住環境を維持し、公共施設集約や公営住宅団地の用途廃止に伴う市有地は、住宅地として土地利用を進める。 ・都市計画市街化調整区域は、市街化を抑制する区域として開発が規制されているが、必要な施設については開発許可制度の適正な運用を進める。						

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成: 2025 年 6 月 19 日 3. 施策の達成状況

施策番号	施 策 名	基本目標	
		政策名	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり 快適な都市環境づくりの推進
4-2-2	快適な住環境の整備	課長名	佐藤季之
主 管 課	都市経営課	内 線	418
施 策 關 係 課	環境土木課		

## 1. 施策の方針と成果指標

快適で安全・安心な公園などの住環境の整備	町内の住環境	快適で安全・安心な住環境を町民に提供する	町の人口減少の抑制と、居住者の快適な暮らしの実現
----------------------	--------	----------------------	--------------------------

成果目標		説明	単位	策定期(年)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
① 芽室町の公園に満足している町民の割合	住民意識調査	%	83.7 (R3)	84.7	81.8			90.0	
② 居住環境に満足している町民の割合	住民意識調査	%	81.5 (R3)	83.3	85.5			90.0	
③ 公共用地売却地への住宅建設の割合	都市経営課調べ	%	15.0 (R3)	90.0	95.0			95.0	
④ 公共サインの整備状況	都市経営課調べ	か所	77 (R3)	80	81			83	

①公園に対する町民の満足度を向上させるため、成果指標に設定し、段階的に目標値を目指すもの。  
②居住環境に対する町民の満足度を向上させるため、指標に設定し、段階的に目標値を目指すもの。  
③令和4年度に民間が造成した公有地売却地への住宅建設状況を把握し、早期着工を図るために目標に設定し、  
④本町らしい統一性のあるデザインによる公共サインによる整備状況を把握し、目標値を目指すもの。

## 2. 施策の事業費

	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	223,692	244,144	343,196		

### 3. 施策の達成状況

10 of 10

(1) 施策の達成度とその考察													
①2024年度 (の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した												
	想定され る理由												
②第5期総合計 画後期実施計画 (2026年度の最 終的な目標達成 状況)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成でき <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難し <input type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業 の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施 <input type="checkbox"/> をしても目標達成は難しい												
	①「公園施設長寿命化計画」に基づく施設の更新等を実 施 ②「公営住宅等長寿命化計画」に基づく整備の実施及び 防震改修補助制度(建て替え・解体)の活用 ③既成市街地での子育て世帯を中心とする一戸建て住 宅の建設ニーズの増加により、目標達成 ④市街地内の公共施設への誘導サインを計画的に整備												
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括													
①施策の成果向 上に対する貢獻 度が高かった事 務事業	<table border="1"> <tr> <td>公園施設等維持管理事業</td> <td>②施策の成果向 上に対する貢獻 度が高かった事 務事業</td> </tr> <tr> <td>花菖蒲園維持管理事業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公営住宅維持管理事業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>限定特定行政手務</td> <td></td> </tr> </table>	公園施設等維持管理事業	②施策の成果向 上に対する貢獻 度が高かった事 務事業	花菖蒲園維持管理事業		公営住宅維持管理事業		限定特定行政手務					
公園施設等維持管理事業	②施策の成果向 上に対する貢獻 度が高かった事 務事業												
花菖蒲園維持管理事業													
公営住宅維持管理事業													
限定特定行政手務													
②事務事業全体 の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公園施設の長寿命化計画の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>→公園の既存施設は、劣化状況等に合わせ計画的に修繕及び更新を進めている。</li> <li>→居住環境の改善に向けた空き家の対策</li> <li>→空き家等対策計画を策定し、空き家などの発生抑制、適切な管理及び利活用に関する対策を総合的に進めている。</li> <li>●公営住宅の整備と適正な維持管理の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>→低所得者への公営住宅の賃貸を維持継続し、必要な修繕を適正に実施することにより、快適な住環境を提供している。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>												
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)													
担当課 評価	<table border="1"> <tr> <td>公園整備や公営住宅の改修が進んでおり、また、空き家等対策も進 めており、前進したと判断する。</td> <td>進捗結果</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td><td>A</td><td>B</td> </tr> <tr> <td></td><td>C</td><td>D</td> </tr> <tr> <td></td><td>E</td><td></td> </tr> </table>	公園整備や公営住宅の改修が進んでおり、また、空き家等対策も進 めており、前進したと判断する。	進捗結果	○		A	B		C	D		E	
公園整備や公営住宅の改修が進んでおり、また、空き家等対策も進 めており、前進したと判断する。	進捗結果	○											
	A	B											
	C	D											
	E												

A: 実見した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した  
B: (後期実施計画策定時と比較して)後退した  
D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
	今後の取組に対する意見	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した			O		
	この施策に対する意見 ・芽室公園を含む老朽化した各公園トイレの再整備の要望がある。 ・老朽化した公営住宅の建替や改修等、公営住宅の供給に関する要望がある。 ・空き家などの解体費助成の要望や相談がある。 ・賃貸場の再整備や合同納骨壇(合葬墓)の早期整備の要望がある。	5に記載の取り組みを進めてください。					
	5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)	評価	・芽室公園の数値は高い。 ・芽室公園のPark-PFIも進んでいる。	進捗結果			5
	●公園施設などの維持管理の推進 ○芽室公園は国道沿い、大きな芝生公園など、人が集まる立地条件を生かし、老朽化した公園施設の更新と合わせ、魅力ある公園とする(仮称)芽室公園再整備構想を策定し、まちなかへの誘導などを図る。 ●居住環境の改善に向けた空き家の対策 ○空き家などの収束抑制、適切な管理等に関する対策を計画的に進め、空き家等対策計画を策定し、安全で安心して暮らせる居住環境を目指す。 ●芽室町斎場・芽室公園の整備 ○芽室町斎場・芽室公園基本計画に基づき、整備に向けた取り組みを進める。また、芽室公園内に合同納骨壇(合葬墓)の整備を進めよう。 ●公衆浴場の安定的確保 ○住民生活や健康増進などに必要な公衆浴場の安定的確保に向け努力、事業者への支援を継続する。 ●高速通信網の拡充 ○町民生活の向上や産業発展にも寄与する5Gといった次世代通信技術への対応について注視しながら、利用しやすい施設整備を続けてほしい。 ●空き家対策について進めてほしい。	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した					

## 2025年度施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月20日

施策番号		施策名	環境保全と再生エネルギーの推進	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり																					
4-3-1	主 管 課	環境土木課	課長名	橋本 直樹	内 線	414	政策名	自然と調和した持続可能な生活環境の整備・保全																		
	施策関係課																									
<b>1. 施策の方針と成果指標</b>																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施策の方針</th> <th>対象</th> <th>意図</th> <th>結果</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本町の豊かで美しい自然環境の保全と健全な型社会に向けたエネルギーの有効活用をすすめます。</td> <td>町民・町内の自然環境</td> <td>・環境への負荷を低減し、自然環境と景観を保全する。</td> <td>町民が住みやすい快適な生活環境を保全する。</td> <td>②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況</td> <td>①施策の達成度とその考察</td> <td>（1）施策の達成度とその考察</td> <td>（2）施策の達成度とその考察</td> <td>（3）「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)</td> </tr> </tbody> </table>									施策の方針	対象	意図	結果						本町の豊かで美しい自然環境の保全と健全な型社会に向けたエネルギーの有効活用をすすめます。	町民・町内の自然環境	・環境への負荷を低減し、自然環境と景観を保全する。	町民が住みやすい快適な生活環境を保全する。	②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	①施策の達成度とその考察	（1）施策の達成度とその考察	（2）施策の達成度とその考察	（3）「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)
施策の方針	対象	意図	結果																							
本町の豊かで美しい自然環境の保全と健全な型社会に向けたエネルギーの有効活用をすすめます。	町民・町内の自然環境	・環境への負荷を低減し、自然環境と景観を保全する。	町民が住みやすい快適な生活環境を保全する。	②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	①施策の達成度とその考察	（1）施策の達成度とその考察	（2）施策の達成度とその考察	（3）「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)																		
成果指標	説明	単位	策定時目標	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度目標																			
① 芽室町の景観に満足している町民の割合	住民意識調査	%	87.9 (R3)	86.6	86.4		90.0	クリーンめむろ大作戦推進事業																		
② 水・土壤などに満足している町民の割合	住民意識調査	%	92.9 (R3)	92.7	94.1		95.0	地球温暖化対策事業																		
③								②施策の達成度と貢献度が低かった事務事業																		
④								●環境調査(大気・水質・悪臭・騒音)の実施 →河川の水質は気温(高温)の関係等で一部基準値を満たない河川もあるが、その他の調査は環境基準を満たしている。 ●生活環境の維持 →ペット飼育のマナー等について、広報誌等で周知・啓発を行った。また、不法投棄の多い地区の草刈りを定期的に実施したことにより、一定程度の効果が見られた。 ●地球温暖化防止実行計画(事務事業編) →地球温暖化防止実行計画(事務事業編)を策定・改定し、「芽室町ゼロカーボン推進の考え方・具体的な取組を示す」「芽室町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)」「芽室町地球温暖化防止実行計画(事務事業編)」を策定・改定し、ゼロカーボン推進の方向性を見出した。																		
<p>①美しい景観を維持するための成果指標とし、高水準の住民満足度を維持していく目標値を設定。 ②恵まれた自然環境を保全し次世代に受け継ぐための成果指標とし、高水準の住民満足度を維持していく目標値を設定。</p>																										
<b>2. 施策の事業費</b>																										
施策事業費(千円)	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算		進捗結果																			
2,221	2,855	2,953				A	B	C																		
						D	E	O																		

A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した  
D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した  
E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(斤内評価)

<p>状況と今後の予測</p> <p>・日高山脈襟裳国定公園の国立公園指定が決定し、町民の更なる機運醸成を図り、地域の活性化につなげる。 ・地球温暖化防止実行計画を策定し、2050年までにゼロカーボンに向けた取り組みを推進する。</p> <p>・今後の予測</p> <p>・日高山脈襟裳十勝国立公園指定により、自然環境や景観的魅力を再認識する契機となる。 ・地球温暖化による気候変動など、再生可能エネルギー活用の重要性は増している。</p>	<p>評価</p> <p>成果指標等から、維持したと評価する。</p>	<p>進捗結果</p> <p>A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>	<p>今後の取り組みに対する意見</p> <p>5)に記載の取り組みを進めてください。</p>	<p>7. 総合計画審議会(外部評価)</p>	<p>評価</p> <p>C: 成果指標の実績値は高く、進移を見る限り数値が下がっていない。 D: 大きな取り組みですぐに効果が出ないため。</p>	<p>進捗結果</p> <p>A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>

#### 5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>●環境美化活動の推進(クリーンめむら大作戦推進事業、環境審議会運営事業)</p> <p>地域や各団体で取組むことにより、公園等のこみみいや清掃活動、花苗植栽活動等を支援・推進するなどにも、空閑地所有者への草刈り等の環境整備を促すなど、美しい景観づくりを推進する。また、「ごみ処理基本計画」に基づき、ごみ減量化・資源化に取り組む。</p> <p>●地球温暖化対策(地球温暖化対策事業)</p> <p>「芽室町地球温暖化防止計画・区域施設策編」を策定し、その後、「芽室町ゼロカーボンシティ宣言」を行い、本格的にゼロカーボン推進に向けた取り組みを実施する。区域施設策編では、町民・事業者・行政それぞれが一体となってゼロカーボン推進に取り組むこととしており、今後、町民・事業者の意識付けとそれとの取組みが進むことなどが課題。</p> <p>その解決策の1つとして、町民・事業者向けセミナーの実施や町民向け補助事業を創設し、産業部門・家庭部門などの温室効果ガス排出量削減を目指す。行政としては、区域施設策編の策定を受け、「芽室町地球温暖化防止実行計画(事業編)」を策定し、新たな削減目標を設定して取り組む。行政(公共施設等)から排出される温室効果ガスの量は多く、排出量の削減が大きな課題となっている。削減目標達成に向けて公共交通機関の導入や次世代自動車の導入、省エネルギーへの取組などを行ない、成果につなげていく。また、さらなる削減を目指し、新たな再生可能エネルギーの導入に向けた検討を進めること。</p>	<p>評価</p> <p>A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>	<p>今後の取り組みに対する意見</p>	<p>C: 成果指標の実績値は高く、進移を見る限り数値が下がっていない。 D: 大きな取り組みですぐに効果が出ないため。</p>	<p>進捗結果</p> <p>A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>

### 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：2025年6月20日

施策番号		施策名	対象	意図	結果	(1) 施策の達成度とその考察		
4-3-2		廃棄物の抑制と適正な処理	基本目標 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり			□ 成果は向上した	成果指標①向上→ごみ減量化に取り組んでいる。	
	主 管 課	環境土木課	政策名 自然と調和した持続可能な生活環境の整備・保全	①2024年度 (前年との比較) の成果評価	□ 成果は変わなかった	想定され る理由 成果指標②微減→特段の理由なし		
	施策関係課	農林課	課長名 橋本 直樹	内 線 414	□ 成果は低下した			
1. 施策の方針と成果指標		施策の方針	対象	意図	結果	(2) 施策の達成度とその考察		
町民・事業者・行政が互いに協力し、ごみの減量化や資源リサイクルの取組を進め、本町らしい資源循環型社会の構築を目指すとともに、快適な生活環境づくりをすすめます。		町民・事業者	・ごみの減量化と資源リサイクルを推進・快適な生活環境と資源循環型社会の構築	②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	□ 現状の取組の延長で目標は達成できる □ 現状の取組の延長で目標達成は難しくないが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能	①ごみ処理基本計画の重点取組事項を進めることにより、ごみ減量化及び適正排出でごみの資源化を周知し、地域には説明会を開催するなど、町民の意識啓発を図る。 ②町広報誌等でごみの資源化を周知し、地域には説明会を開催するなど、町民の意識啓発を図る。		
成果指標		説明	単位	策定時目標	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標	
① 排出するごみの量	環境土木課調べ	g	413,26 (R3)	394,42	390,45		345	
② リサイクル率	環境土木課調べ	%	32.5 (R3)	31.7	31.3		35.0	
③								
④								
成果指標 設定の考え方		①人口や事業活動に左右されない指標とするため、1人当たりで家庭ごみに限定した成果指標とし、1割削減目標値として設定。 ②ごみを燃やす・埋め立てる処理方法ではなく、資源化することが重要であることから成果指標とし、現状維持以上を目標値として設定。	(3) 「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)					
2. 施策の事業費		策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算	担当課 評価	1人1日当たりの家庭から排出するごみの量は減少傾向、リサイクル率は微減であることから維持したと評価する。
施策事業費 (千円)	229,096	238,955	244,294				A: 実現した B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した	○

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

	評価	成果指標等から、維持したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E	
施策を取り巻く状況変化等による評価		「施策を取り巻く状況変化等による評価」 ・令和10年度採用開始に向け、新中間処理施設(新くりんセンター)整備が進められている。 「今後の予測」 ・高齢化等により、ごみ分別や適正排出が困難な世帯が増加することが見込まれる。	A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して後退した				O		
今後の取組に対する意見		5)に記載の取り組みを進めてください。							
この施策に対する意見		この施策に対する意見 ・芽室町のごみ分別は難しく、収集不可の判断も厳しい。 ・ごみ分別の手引き、町広報誌(エコナビ、通信)やSNSなどを活用し、周知啓発を行った。 ・町指定の色付き資源ごみ袋を禁止、透明及び半透明袋に変更してほしい。 ・令和10年度採用開始の新中間処理施設はごみ分別、搬入内容が変更となることから、指定ごみ袋(色付き) のあり方にについて合わせて検討する。							
5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)	評価	・芽室町のごみ分別は難しく、収集不可の判断も厳しい。 ・ごみ分別の手引き、町広報誌(エコナビ、通信)やSNSなどを活用し、周知啓発を行った。 ・町指定の色付き資源ごみ袋を禁止、透明及び半透明袋に変更してほしい。 ・令和10年度採用開始の新中間処理施設はごみ分別、搬入内容が変更となることから、指定ごみ袋(色付き) のあり方にについて合わせて検討する。	・目標に近づきつつあるが、前年と比べると大きく変動していなかった。 ・分別について意識の定着を感じる。	進捗結果	A	B	C	D	E
6. 総合計画審議会(外部評価)			A:実現した B:後期実施計画策定期と比較して大きく前進した C:後期実施計画策定期と比較して変わらない又は維持した D:後期実施計画策定期と比較して一歩進んだ E:後期実施計画策定期と比較して変わらない。						

- 「芽室町ごみ処理基本計画」の推進
- 令和2年度に策定した「ごみ処理基本計画」に基づき、ごみ減量と資源化による環境負荷の低減につなげ、資源循環型社会の形成に向けた取組みを進める。
- 農業廃棄物の適正処理の推進
- 「芽室町農業用廃プラスチック適正処理対策協議会」において、常に見直しを図りながら、引き続き適正処理を推進する。

2025年度 施策マネジメントシート [2024年度実績評価]

作成：2025年6月20日

### 3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察									
①2024年度の成果評価 (前年との比較)		想定される理由							
<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった	<input type="checkbox"/> 成果が主な要因	成果指標①向上一降雪状況に応じたきめ細かな除雪作業						
<input type="checkbox"/> 成果は低下した		<input type="checkbox"/> 成果指標②向上一路線変更等を講じたことなどが主な要因							
(2)施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括									
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しく、が、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい、	①除雪作業に対する理解度を高め、玄関前除雪(間口除雪)の対象範囲拡大を検討する。 ②コミュニティバスの利用状況を分析し、課題点に対する対応策を講じる。 (理由)						
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)									
担当課評価	降雪状況等に応じた除雪作業及びコミュニティバスの利便性向上を図り、前進したと判断する。		<table border="1"> <tr> <td>進歩結果</td><td><input type="checkbox"/> A</td><td><input type="checkbox"/> B</td><td><input type="checkbox"/> C</td><td><input type="checkbox"/> D</td><td><input type="checkbox"/> E</td></tr> </table>	進歩結果	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D	<input type="checkbox"/> E
進歩結果	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> D	<input type="checkbox"/> E				

A: 実現した  
B: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した  
C: (後期実施計画策定時と比較して) 変わった  
D: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した  
E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

#### 6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E	
今後の取組に対する意見	<p>「施策を取り巻く状況」 ・農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている。 「今後の予測」 ・道路施設の経年劣化により、道路の補修量の増加が見込まれる。 ・同一規準での整備ではなく、各路線の役割に沿った標準で整備を進めるこにより、整備延長を増加させる必要がある。</p> <p>5に記載の取り組みを進めてください。</p>	進捗結果 ○	A A、実現した	B B、(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した	C C、(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した	D D、(後期実施計画策定期と比較して)変化した	E E、(後期実施計画策定期と比較して)後退した
今後の取組に対する意見	<p>この施策に対して、 ・郊外の砂利道について舗装にしてほしい。 ・道路整備計画(5か年)の優先順に整備を進めてほしい。 ・玄関先の除雪(窓口除雪)を実施してほしい。 ・身体の不自由な方や後期高齢者世帯でお近くに頼る方がいる家庭を対象に実施し、範囲拡大について検討している。 ・高齢者の方々の免許返納に対する町の支援が必要である。 →免許返納窓口を庁舎内に年2回設置した。</p>	評価 B B、成果指標の向上。 C C、(LINE)による除雪の発信を評価。 ・除雪を評価。 ・成果指標の増加を評価。	A A、実現した	B B、(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した	C C、(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した	D D、(後期実施計画策定期と比較して)変化した	E E、(後期実施計画策定期と比較して)後退した
今後の取組に対する意見	<p>● 交通弱者への交通手段の確保(地域公共交通確保対策事業) 農村部については、高齢者を対象にしたタクシー助成の利用者が増えてきており、引き続き周知を図る。市街地については、コミュニティバスの利用状況を分析する必要がある。</p> <p>● 安全で安心な道路環境の整備(町道・歩道・駐車場等維持管理事業) 老朽化した橋りょうの修繕、交通安全施設や緑化、省エネ街灯などの環境対策、案内標識の整備、高齢者や障がい者など多様な人々に配慮した道路環境整備を計画的に実施する。</p> <p>● 老朽化した橋りょうの修繕、交通安全施設や緑化、省エネ街灯などの環境対策、案内標識の整備、高齢者や障がい者など多様な人々に配慮した道路環境整備を計画的に実施する。</p> <p>冬期間における除雪対策を含め、車道・歩道の適切な維持管理を行うため、拠点となる車両管理センターの移転改築を進めることの必要がある。</p>	評価 B B、除雪に対する意見 C C、(コミュニティバスの運行について、定期運行だけではなく、配車アプリのような仕組みをを使って、定期運行以外も対応できないか検討してほしい)。	A A、実現した	B B、(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した	C C、(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した	D D、(後期実施計画策定期と比較して)変化した	E E、(後期実施計画策定期と比較して)後退した